

2024年11月

# CWS JAPAN NEWSLETTER NO.98

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## 年次報告書 2023-2024が 完成しました！

皆さまこんにちは、高橋です。

年次報告書2023-2024が完成しました。CWS Japanは7月が年度始まり。今回の年次報告書は2023年7月～2024年6月に取り組んだ活動の報告です。年次報告書はウェブサイトよりダウンロードいただけます。ぜひご覧ください！

▶[ダウンロードはこちら](#)

**たった一人のためにでも、世界をつなげたい。**

今回の表紙は、2024年5月にパキスタンで撮影した1枚を選びました。わたしたちが大切にしている“たった一人のためにでも、世界をつなげたい”を表現したデザインです。

この写真はパキスタン事業を担当する五十嵐豪職員がパキスタン出張時に、シンド州のミルツォカル口村(Mirzo Kalro)で、洪水被害を受けた畑の土壌を確認している様子を撮影したものです。

この畑は、2022年の洪水被害を受けて土壌が塩化してしまいました。塩化から土壌を回復するためには大量の水を使い、洗濯の“すすぎ”のような作業を行う必要がありますが、水不足もあり、2年経った今も作業が進んでいません。

この活動は、防災力向上・コミュニティ開発

支援として、2024年3月から開始した<シンド州洪水被災地区の農業生産性とレジリエンス強化>の事業です。

▼事業詳細についてはこちら  
(年次報告書では6ページに記載しています。)



2023.7.1 - 2024.6.30



年次報告書2023-2024表紙 ©CWS Japan

## 印刷とデザイン：環境に配慮して

本年次報告書はオンライン上でご覧いただけますが、インターネット環境が整っていない方やメールアドレスをお持ちでない寄付者の方々もいらっしゃるため、印刷もしています。

印刷は、今回も環境負荷低減に取り組む大川印刷さんをお願いしました。印刷に使用している用紙はFSC森林認証を取得した紙で、大気汚染を招くVOC(揮発性有機化合物)という石油系溶剤を含まないノンVOCインキでプリントするなど、環境に配慮されたグリーンプリンティング工場認定で印刷されています。

### 【FSC認証とは】

FSC認証は環境、社会、経済の便益に適い、適切に管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品を目に見える形で消費者に届ける仕組みです。

▶[FSC認証詳細についてはこちら](#)

### 【グリーンプリンティング工場認定制度とは】

グリーンプリンティング工場認定制度(GP工場認定制度)は、日印産連「各印刷サービス」グリーン基準に基づき、客観的な審査によって環境配慮された印刷工場を認定する制度です。

▶[グリーンプリンティング工場認定制度詳細についてはこちら](#)

また、今回のデザインはNPOにおける広報・デザインに豊富な知見を持つ、株式会社ガハ八さんに依頼しました。CWS Japanの想いやカラーを踏まえ、多岐に渡る事業内容と成果を分かりやすくデザインしていただきました。

## お手元にもお届けします

ご支援いただいております皆さまには、年次報告書を順次発送させていただきます。ぜひお手にとってご覧いただけましたら幸いです。

今回で2号目となる年次報告書。皆さまからのお声やフィードバックをいただきながら、より伝わりやすく、読みやすいものにしていきたいと思いますので、ご感想やご意見などをぜひお寄せください。

今後もCWS Japanは皆さまのお力をいただきながら、守れる命を守るために邁進してまいります。引き続き、温かいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(文：高橋明日香)



皆さまのご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

継続的な  
寄付

今回のみ  
寄付

# アジア太平洋 防災閣僚級会議 (APMCDRR) 2024に出席しました

こんにちは、ADRRN Tokyo Innovation Hub (ATIH)の打田です。

2024年10月13日から17日にかけてフィリピンの首都マニラで開催されたアジア太平洋防災閣僚級会議(APMCDRR)2024に参加してきました。

隔年で開催されるこの会議は、アジア太平洋地域の災害リスク軽減を加速するため、共通の優先事項を設定し、革新的なソリューションを共有し、地域連携を強化することを目的としています。期間中は各国の防災担当政府機関や国際機関、NGOなど3,000人以上が集まり、さまざまなイベントが開催されました。

今回は、CWS Japanが中心的な役割を担っているADRRN Tokyo Innovation Hub (ATIH)に関連する3つのイベントを取り上げ、感じたことを報告します。

## ローカルリーダーが防災に果たす役割とは

アジア防災減災ネットワーク(ADRRN)などが共催した「The Asian Local Leaders Forum for Disaster Resilience (ALL4DR Awards)」では、草の根レベルで防災に取り組むリーダーの活動を称え、社会的認知を高めるため、アジア全域から他者推薦された多数の候補者から4名が表彰されました。4名のうち3名はATIHも参加するプログラム Community-Led Innovation Partnership (CLIP)を通じて支援するイノベーターでした。

受賞者の活動内容は、身体障害者のモビリティを高める乗用車「A-tram」の開発や、医療機関のない僻地での民間療法の拠点「House of Healing」の運営、精神障害者への防災教育や生計支援を行う「Education Park」の運営、高潮や津波の影響を緩和するマングローブの植樹活動とさまざまです。



ALL4DRの授賞式の様子 ©CWS Japan

共通点は、災害リスクの高い地域の住民が当事者として声をあげることで生まれた活動が、周囲の住民が感化されて参加することで次第に広がってきたことです。

同じ災害リスクの地域に暮らしていても、女性や障害者、少数民族などのマイノリティはリスク情報や意思決定の場へのアクセスが限られ、被災リスクが高まる傾向にあるため、当事者リーダーの活躍は地域全体のレジリエンスに大きく貢献します。他方、マイノリティは慣習やスティグマ(差別・偏見)に晒されるため、声をあげるには大変な勇気が必要です。こうした授賞式は受賞者を鼓舞するだけでなく、まだ声をあげられない多くの人の支えにもなることだと感じました。

## 早期警戒をすべての人に

国連防災機関(UNDRR)が主催したシンポジウム「Regional EW4All MSF: Risk Knowledge for Early Warning, Early Action」では、開発途上国や島嶼国(とうしょこく)で特に遅れている早期警戒や早期行動を促進するために、危険や脆弱性(ぜいじゃくせい)が生まれ

る要因のパターンと傾向を関係機関がいかに特定し、対処できるかが話し合われました。

前半はマニラの都市型洪水を想定したロールプレイ型災害シミュレーションを行いました。参加者はさまざまなステークホルダーの立場からリスクを最小化するための意思決定を迫られましたが、限られた時間と情報のなかで起こる混乱や分断などが可視化され、平時からのリスク情報の収集、活用や連携の重要性が再確認されました。



地域での取り組みを紹介するユースの代表 ©CWS Japan

後半は災害リスクの情報収集・活用に関わる各関係機関が独自の取り組みを紹介しました。特に印象的だったのはフィリピンのユースの発表で、有志のユースグループが地元の高校生たちを巻き込んで地域の降雨量を可視化したり、リスク情報を活用して対策を考えたりするという活動でした。国際会議では大人だけが議論しがちなので、未来を担う若者が自らの地域でアクションを起こしたり、その成果を広く伝えたりする場面は新鮮でした。今後、国際会議での若者の参加が主流化していくと良いのではないかと感じました。

## 地域主導のイノベーションと防災

最後に、ATIHも参加するプログラム

(Community-Led Innovation Partnership CLIP)のブース展示についてお伝えします。今年で4年目を迎えるCLIPでは、フィリピンとインドネシアのパートナーが合わせて50を超える地域の新しい取り組み(イノベーション)に助成金と伴走支援を提供しています。ブースではこれらの支援活動について写真やアニメーションを用いて視覚的に展示したこともあり、フィリピンやインドネシアの防災関係者を中心に多くの方々が訪問してくれました。



CLIPのブースを訪れる関係者 ©CWS Japan

なかには、フィリピンの地図を見ながら「このプロジェクトが実施されているのは私の家の近くよ」などと嬉しそうに話す方もあり、自分の経験に引き寄せながらその多様性や小さな声を理解しようと熱心に耳を傾けてたように思います。

CLIPでは、植民地主義的なドナー中心の災害支援のありかたに疑問を投げかけ、地域の人々が自らの優先課題を話し合い、その解決策を実際に試行錯誤しながら実現するプロセスを支援しています。今後もこうしたアプローチにより多くの投資がされるよう、地道に情報発信を続けたいと思います。

(文：ATIH担当 打田郁恵)

# 現地関係者に事業の インパクトについて インタビュー アフガニスタン×防災力 向上支援

こんにちは、インターン生の村上です。今回は先日アフガニスタンの現地関係者に行ったインタビューの内容をお届けしつつ、防災事業におけるインパクトとは何かについて考えていきたいと思えます！

▼アフガニスタン防災力向上事業の詳細についてはこちら



【事業進捗報告】  
アフガニスタンで  
目指す、防災の  
ローカライゼーション



▼中臺(なかだい)さんによる前回のインタビュー記事はこちら



【インタビュー】  
アフガニスタン  
包括的防災能力向上事業  
現地関係者に  
取り組みについて聞きました！



## 防災事業におけるインパクトとは

皆さんは、何かの事業におけるインパクトとは？と聞かれたら、どのように答えますか？実はわたしはこの事業に携わるまで、インパクトについてよく理解していませんでした。防災事業におけるインパクトとは、中長期的に支援を行うなかで、「防災インフラを建設した。キャッシュを配布した。」といったアウトプットのさらに先にある、そこに住む人の意識や行動が変化した、災害に対するレジリエンスが向上したなどの効果や波及を指します。

災害時に優先されるのは復旧・復興ですが、次に同じような災害が起きたときに被害を最小限にするためには、防災能力自体を向上させる必要があります。支援を行なっている国やコミュニティが、いずれは他者の力を借りることなく災害を乗り越えることができるようになることを、防災という文脈における持続可能性だとわたしは捉えています。

## 地域住民の意識や姿勢の変化

地域の住民やコミュニティの意識の変化について、以下の2つを聞いてみました。

1. CWS Japanの支援開始後、住民の災害リスクに対する意識や態度に変化はあったか？
2. 地域住民の意識の変化をどのように定量化するのか？

実際に現場でインフラ建設などに当たっていた方は、コミュニティの人々の防災意識の高まりを感じているそうですが、住民の行動の変化や活動の波及の例として、アフガニスタン・バーミヤン県のサイゴン地区の山で鉄砲水の流れを固定化するプロジェクトの話を教えていただきました。現在この地点は地域の人により管理され、さらにその周辺の山に住む、別のコミュニティの住民も同じ管理方法を実施していることが分かったそうです。

また、このような意識を定量的に測る方法として、防災に関するセッションを実施し、その前後で住民の知識や今後の行動について問うアンケートを実施したそうです。セッション終了後、住民は災害が起きた時に安全な場所や避難する場所について理解するようになったと言い、可視化の難しいインパクトですが、この地域の活動を評価することができそうだと感じました。

## 事業を進める過程での地域住民や女性の関わり

CWS Japanはたびたび、「地域住民主体の防災」について強調してきましたが、実際に活動をする過程で、どのように地域の住民や女性は関わったのかについても聞いてみました。質問は2つです。

1. ダムや防護壁を建設する過程で、地元住民や女性はどのように関与したか？

2. コミュニティにおける女性の社会的・経済的地位はどのように評価されたか？

バーミヤン県では過去に、洪水や鉄砲水のリスクが高い河川に沿って防護壁を設置するプロジェクトが実施されました。このプロジェクトでは、男女問わず、多くの住民が防護壁の建設に直接関わっていたそうです。参加者296人のうち女性は76人。防護壁は、鉄線で作った蛇籠(じゃかご)に石を詰めたものを積んで造りますが、女性は自宅で作るという形で参加しました。



防護壁を造る様子 @CWSA

このようなプロジェクトには女性も多く参加することが可能ですが、政権の崩壊後、女性の社会的・経済的地位は以前より悪化しているそうです。女性は夫や兄など男性の保護者の同伴なしに一人で外出することが難しいため、適切な教育が受けられないほか、仕事も親族が携わっている職場のみなど、かなり行動が制限されているのが現実だそうです。このような状況について現地の方の生の声を聞くことは、普段当たり前のように大学に通っている女性のわたしにとって、衝撃的でした。

## 建設した防災インフラが災害リスクの軽減につながった証拠

防災インフラが、実際に災害のリスクを軽減したといえるエビデンスがあるのかについても聞いてみました。

第2フェーズの2022年11月から2023年9月までの間、サイゴン地区のゴラフ村では、洪水の際に水路の氾濫を防止するために砂防ダムを

建設するプロジェクトがありました。



完成した砂防ダム @CWSA

各水路で砂防ダムが建設されて以降、コミュニティは家やモスクの再建に乗り出し、現在は農地を復旧するにまで至ったそうです。そして今年の6月と7月にこの地域で洪水がありましたが、この水路では洪水が起らなかったそうです。コミュニティの人々はこのことをとても喜び、その後も砂防ダムの建設を進めているといいます。

このような成功体験は、現地コミュニティにとってとても大切だと感じました。その一方で、わたしたちは議論の中で、このようなインフラの建設が災害のリスクを減らすことはできても、ゼロにすることはできないのだということを改めて認識しました。

## 現地コミュニティは今後どんな支援を求めているのか

CWS Japanが支援にあたることのできるコミュニティの数や災害の種類は限られており、全てをカバーすることは叶いません。まだ取り組んでいない地震の対策や農業用水路の再建、人員確保など、多くの面で足りない部分があることを知りました。それでも、インタビューを通して、CWS Japanが現地関係者やコミュニティの方から信頼され、歓迎され、感謝されているということを感じ、この支援の意味や価値を以前よりも理解することができたように思います。

インタビューを引き受けてくださった現地の方や、サポートしてくださった小美野事務局長にも心からお礼申し上げます。

(文：インターン生 村上琴美)

# アフガニスタン 帰還民支援 人々の命を繋ぐ

こんにちは、五十嵐豪です。  
アフガニスタン帰還民(アフガニスタンに帰還したアフガニスタン人の難民)に対する支援について、現地の声も交えて報告します。

### 難民でいられなくなった帰還民たち

長年にわたる戦争や政情不安のため、多くのアフガニスタン人が難民として国外に逃れています。その数は、最新の統計では260万人に上ると言われています。そのうち220万人は隣国であるパキスタンとイランに逃れています。

しかし、最大のアフガニスタン難民受入国の一つであるパキスタンも、国内情勢が近年複雑になってきており、特に2023年9月以降、難民に対する対応が厳しくなってきました。こうした事情からパキスタンから多くのアフガニスタン難民が帰還しています。この人数は2023年9月～2024年11月の間で、76万人を超えました。

こうして帰還した多くの人たちは、状況が改善したから祖国に帰還できたのではなく、難民としての状況が厳しくなったので、帰還せざるをえなかった人たちです。帰還先に安定した生活基盤があるわけでもなく、政情不安が続くアフガニスタンでは十分な社会的サポートも期待できません。こうした状況を受けてCWS Japanは帰還民に対する支援を2024年3月より開始しました。

▼支援開始時の報告と支援内容に関する記事はこちら

● ●

【事業開始報告】  
アフガニスタン  
帰還民支援  
2024.3から開始



たった一人のためにも、世界をつなげたい。  
CWS JAPAN  
Church World Service

## 帰還した祖国で直面する課題

パルミナさんは、14人の家族と共に2024年2月にパキスタンからアフガニスタンに帰還しました。家族の年齢は2歳から71歳までいます。現在のアフガニスタンでは、政治的背景から女性が家庭の外に出て就労することが難しく、家族の中で就労可能な年齢の男性は2人の息子のみとなっています。しかし、経済的混乱が続くアフガニスタンでは、その2人の息子も仕事を見つけることは難しく、なかなか現金収入を得ることができません。また、高齢の夫は胃がんを患っており、働くことができないだけでなく、十分な医療ケアを受けることもできませんでした。パルミナさん一家は、CWS Japanとその現地パートナーによる支援を受け、祖国アフガニスタンでの生活再建に向けた一歩を踏み出そうとしています。



パルミナさん(写真最左)とその家族。©CWSA

## 命を繋ぐ支援

CWS Japanは2024年4～6月の間、パキスタンとの国境に接し帰還民が最も多いナンガルハル県で、帰還民150世帯(1,110人)に対して、1世帯あたり3回の現金給付を行いました。



現金給付に並ぶ人々。  
きちんと支援が届くように確認している。©CWSA



支援を受け取った  
サブザリさん一家の食事の様子。©CWSA



保存できる小麦粉を購入して、  
主食のパンを都度作ります。©CWSA



料理するには調理器具も必要です。  
受け取った現金はこうした  
必需品の購入にも使われます。©CWSA

**アフガニスタンの人々に寄り添います**  
アフガニスタンの人々を取り巻く環境はまだ  
まだ厳しい状況にあります。帰還民だけでなく、  
難民や国内避難民、そして強制移動をして  
いない一般の住民でさえも、多くの人が人  
道支援を必要としている状況です。CWS Japan  
は今後も現地の状況の変化を注視し、現地  
の人々に寄り添い、共に息の長い支援を続  
けていきます。  
(文：プログラム・マネージャー 五十嵐豪)

## さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは  
[ここをクリック](#) or  
QRコード読み込み

認定NPO法人CWS Japan @Japan\_CWS · 3秒  
＼「多文化共生防災まち歩き」と「日本文化体験」の2本立て | 11月のコミュニティ・カフェ@大久保/  
CWS Japanが新大久保のルーテル教会で運営しているコミュニティ・カフェ@大久保(@commucafes2023)にて、11月に開催した2つのイベントのレポートをお届けします。



note.comから

637 投稿      1,206 フォロワー      2,097 フォロー中

認定NPO法人CWS Japan  
@cws\_japan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。  
災害時に支援の手が届かず取り残される人々を... 続きを読む

[linktr.ee/cwsj](https://linktr.ee/cwsj)

日本      アフガニス...      イベント・...      アドボカシ...      インドネシ...



**CWSJapan | note**

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を...

n note (ノート)

# 「多文化共生防災まち歩き」と「日本文化体験」の2本立て 11月のコミュニティ・カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。

今月もコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事をお届けします。

## 日本語学校生との大久保多文化共生まち歩き

11月第1週目のコミュニティ・カフェでは、6月に続いて、地域の日本語学校(友国際文化学院)の学生を対象にした、大久保多文化共生防災まち歩きを実施しました。

同学院との防災まち歩きはこれで3回目になりますが、毎回違う学生が参加してくれています。今回は、ミャンマー、ベトナム、中国、ネパール、モンゴルの5カ国からの留学生と、カフェの日本人ボランティア3名で行いました！

はじめにルーテル教会で、自己紹介や自助に関するグループワークと避難所・避難場所の説明動画で事前学習した後、実際に大久保の町を一緒に歩きながら、地域の一時(いっとき)集合場所・避難所・帰宅困難者一時滞在施設などの場所を回って、説明しました。



避難場所に指定されている戸山公園などを巡りました  
©CWS Japan



帰宅困難者一時滞在施設として認定された柏木教会では避難時の過ごし方について説明していただきました©CWS Japan

参加した学生からは、学校には通っていてもその近くの道や公園については今まで行ったことがなくて知らなかったという声や、今後は地域のボランティア活動にも参加したい！という素晴らしい感想も聞かれ、とても喜ばしい時間になりました。



簡易トイレの使い方についても学びました  
©CWS Japan

## おはなしと遊びの日本文化体験

11月20日のコミュニティ・カフェでは、久々に学生によるイベント企画と、地域の読み聞かせグループ「よんでの会」の皆さんとのコラボ企画となりました。

早稲田大学の高野ゼミ生による「遊びの日本文化体験」では、けん玉、福笑い、折り紙といったお正月の時期によく遊ばれる日本の伝統的な遊びの文化を体験できるイベントが催され、それぞれ和気あいあいと遊びながら交流を楽しむ時間になりました。



前回の街歩きに参加していた学生も参加し、けん玉を楽しんでいました ©CWS Japan



手裏剣や折り鶴などを黙々と折っている姿も！  
©CWS Japan

「よんでの会」による読み聞かせでは、絵本や紙芝居・大型絵本などさまざまな形による読み聞かせを披露していただきました。絵本の読み聞かせというと子どもに向けて行われるものを思い浮かびますが、大人向けの読み聞かせも行っているということで、大人の居場所づくりをしているこのカフェにはぴったりだったということもあり、今回開催することとなりました。

当日は朝から冷たい雨が降り続く冬のような寒さの日でしたが、地域の日本語学校生や日本語学習者などの青年世代から、新宿デイサービスの利用者などのご高齢の方まで幅広い世代の様々なルーツを持つ方がご参加下さり、実に多文化で多世代なイベントになりました。日本の昔ながらの遊びや読み聞かせを、それぞれ楽しむ参加者の皆さんの姿が何とも微笑ましくありました。



昔懐かしい紙芝居での読み聞かせもありました  
©CWS Japan



大型絵本では『モチモチの木』を  
読み聞かせしていただきました！ ©CWS Japan

これからもコミュニティ・カフェ@大久保では、「教え・教えられる」「助け・助けられる」出会いの居場所づくりを目指し、これからも多文化・多世代の交流イベントを企画していきます。

## 12月のカフェ企画のお知らせ

12月は以下のカフェ企画を予定しています！



**コミュニティ・カフェ@大久保**  
多文化・多世代共生のための大人の居場所

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00  
場所：日本福音ルーテル東京教会  
東京都新宿区大久保1-14-14（JR新大久保駅から徒歩5分）

**12月の予定**

営業日	イベント企画
12月4日（水） 13:30-16:00	これもチャイ？あれもチャイ？ （事前申込制）
12月18日（水） 14:30-15:30	クリスマス歌声カフェ （事前申し込み不要、参加費無料）

※イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSでお知らせしています！

Facebook | Instagram | X

QRコード: COMMUNITY CAFE @ OHTSUKA

12月といえば…クリスマスですね。  
クリスマスにちなんだ、大好評企画のクッキングや歌声カフェを開催します！

12月もぜひコミュニティ・カフェ@大久保にお立ち寄りください。

コミュニティ・カフェ@大久保の各種SNSはこちら！

- Facebook
- Instagram
- X(旧Twitter)

（文：プロジェクト・オフィサー  
五十嵐望美）

（右）大好評の歌声カフェをクリスマスVer.でお届け！ウクレレ演奏によるクリスマスソングということで、ぜひ一緒に歌いましょう♪



**クリスマス・カフェ企画**  
**これもチャイ？あれもチャイ？**

2024.12/4（水）13:30-16:00

スパイスから作るチャイ+ブラチョコを使ったデザート作り、ミッキーさんのドリンクよもやま話をお楽しみいただけます。

講師：ミッキーさんプロフィール  
日本福音ルーテル東京教会員。ベルギー農村地方の手作りビールに魅せられ、ベルギービール専門バーに勤務。輸入・広報業務などを手がけた後に独立。ベルギーで出会ったコーヒーマスター・紅茶の楽しみ方を独自に研究し、その後、飲食店経営のためのプロスクールのコンサルタントや紅茶、アルコール飲料の専任講師、パリススタ養成コースアシスタントを14年間務める。

定員 10名（事前申込制） 会場 日本福音ルーテル東京教会  
住所：東京都新宿区大久保1-14-14  
最寄り駅：JR新大久保駅、100円ショップCan Do並び

参加費 1,000円（材料費）

持ち物 エプロン/ハンドタオル

事前申込 Google Map

主催：コミュニティカフェ@大久保  
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)

会場所を失った人への緊急活動応援助成

ホットドリンクとデザート作りのクッキング企画です！教会員のミッキーさんから教わりながら、一緒に作りましょう。



**クリスマス歌声カフェ**

日時 2024.12.18（水）14:30-15:30

会場 日本福音ルーテル東京教会  
住所：東京都新宿区大久保1-14-14  
アクセス：JR新大久保駅から徒歩5分  
100円ショップCan Do並び

参加費無料 / 事前申込不要

演奏者プロフィール

細田 美千代さん（1941年1月19日生）  
武蔵野音楽大学声楽家を卒業  
立川港人クワルテットのメンバーとして、帝国劇場「風と共に去りぬ」に出演  
バリ留学時に、フランス女流作曲家連理ブルミエプリ受賞  
「ルサルカ」主演時に、埼玉双光賞受賞  
現在鶴川幼稚園の園長を務める。

石井 恵子さん（1941年1月17日生）  
武蔵野音楽大学ピアノ科卒業  
横須賀に在学中は防衛大学の連続ベートーベンソナタコンサートに出演  
多摩市に移転してからは、市の行事やコンサートに出演  
最近ではピアノデュオ（ケトルシスターズ）を組み、クラシックポピュラージャズのジャンルを超えた演奏で活躍している。  
現在東京教会会員バイオリン奏者を務める。

主催：コミュニティカフェ@大久保  
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)

特定非営利活動法人CWS Japan  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：  
public@cwsjapan.jp  
電話：  
03-6457-6840

